



健康状態に不安のある高齢者が行う 非対面交流の有無と孤独感の関係

○水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

目的

健康状態に不安のある高齢者の非対面交流が
孤独感に影響を与えているかを明らかにする

調査概要

調査時期	2025.1
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国,65～84歳
割付	性別・年齢・地域・都市規模
サンプル数	719

高齢者の孤独感が高いと、生活満足度、認知機能、主観的健康観、抑うつ、心疾患の発症、早期死亡、自殺リスクに影響を与える

子が独立した高齢者の孤独感が高いと生活満足度が下がる

Liu LJ, Guo Q : Life satisfaction in a sample of empty-nest elderly ; a survey in the rural area of a mountainous county in China. Quality of Life Research, 17 : 823–830, 2008.

高齢者の社会的ネットワークが狭くなる（孤独感を感じる）と認知症発症リスクが高まる

Fratiglioni L, Wang HX, Ericsson K, et al. : Influence of social network on occurrence of dementia ; a community-based longitudinal study. The Lancet, 355 : 1315–1319, 2000.

定年後の孤独感が増すとうつ病リスクが高まる

Tijhuis MA, De Jong Gierveld J, Feskens EJM, et al. : Changes in and factors related to loneliness in older men. The Zutphen Elderly Study. Age & Aging, 28 : 491–495, 1999.

孤独感が高くなるとうつ病リスクがあがる

Adams KB, Sanders S, Auth EA : Loneliness and depression in independent living retirement communities : risk and resilience factors, Aging Mental Health, 8 (6) : 475–485, 2004.

高齢者の孤独感が高いと、生活満足度、認知機能、主観的健康観、抑うつ、心疾患の発症、早期死亡、自殺リスクに影響を与える

精神的サポートの欠如、交友関係の欠如があると心臓疾患の可能性が強まる

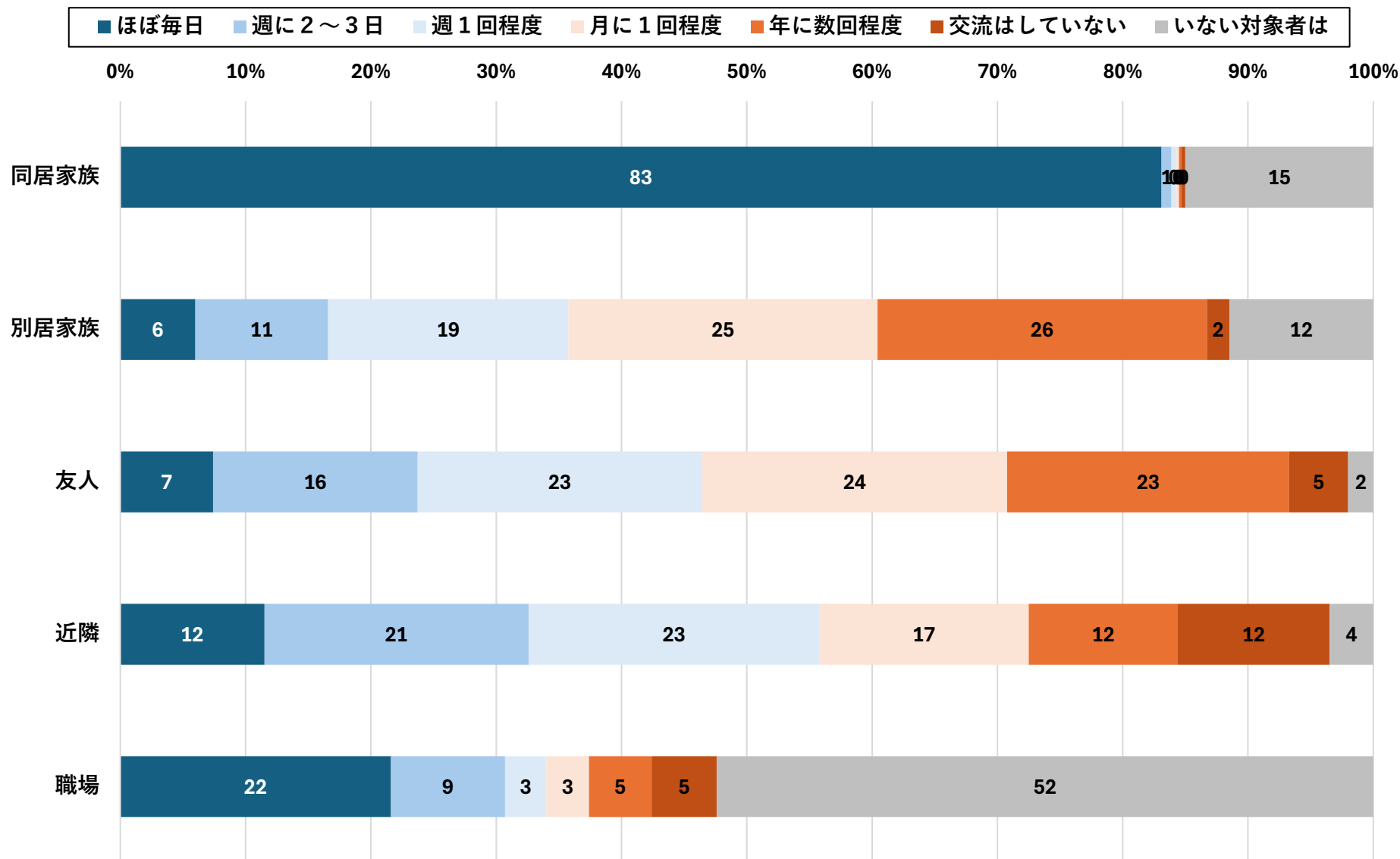
Sorkin D, Rook KS, Lu JL : Loneliness, Lack of emotional support, lack of companionship, and the likelihood of having a heart condition in an elderly sample. Society of Behavioral Medicine, 24 (4) : 290–298, 2002.

孤独感が高いと死亡リスクが上がる

Luo Y, Hawkey LC, Waite LJ : Loneliness, health, and mortality in old age ; A national longitudinal study. Social Science & Medicine, 74 (6) : 907–914, 2012.

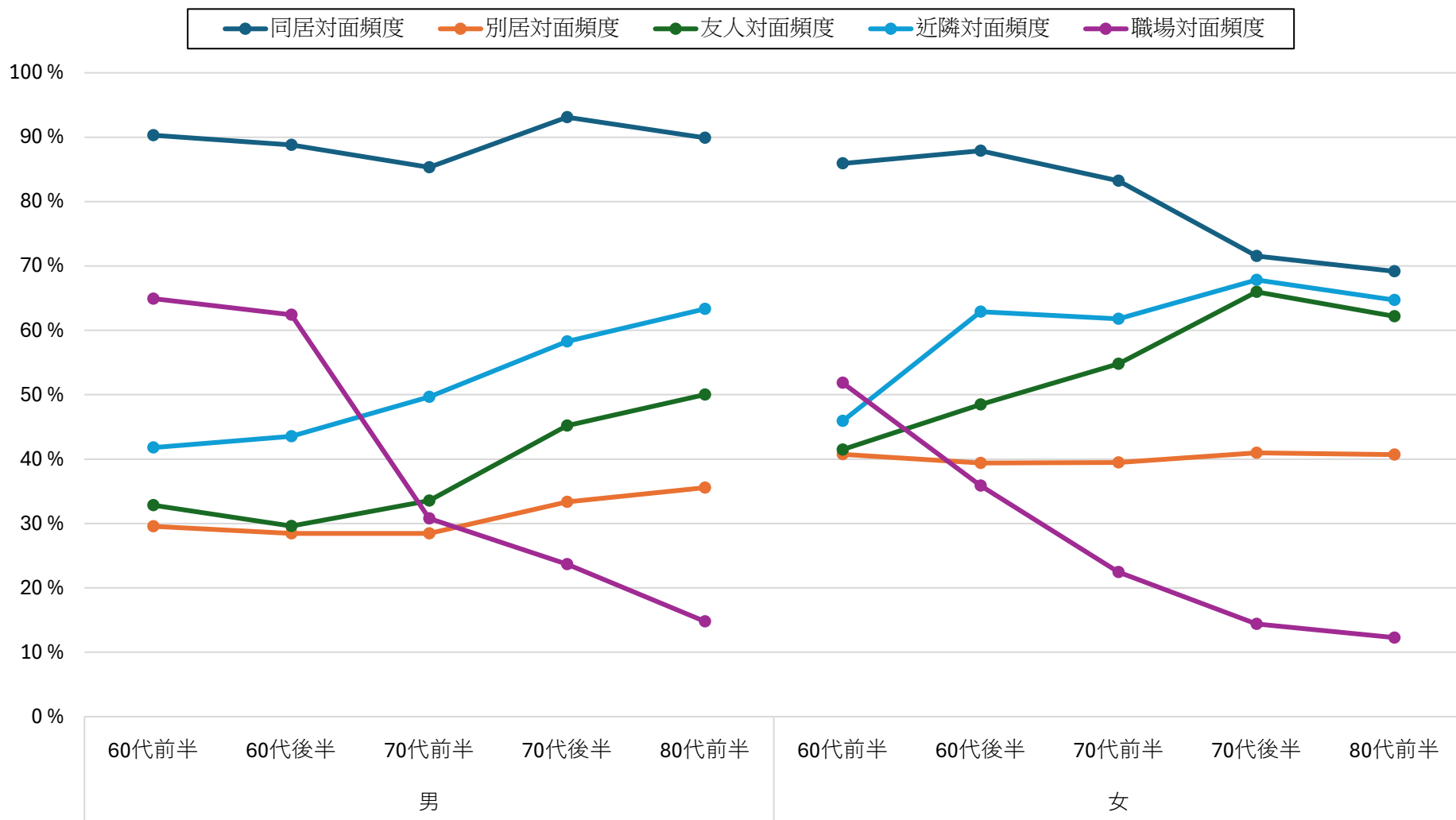
Huges CP : Community psychiatric nursing and depression in elderly people. Journal of Advanced Nursing, 17 : 34–42, 1992,

「週1回以上の交流頻度は「別居家族」36%「友人」46%「近隣」56%



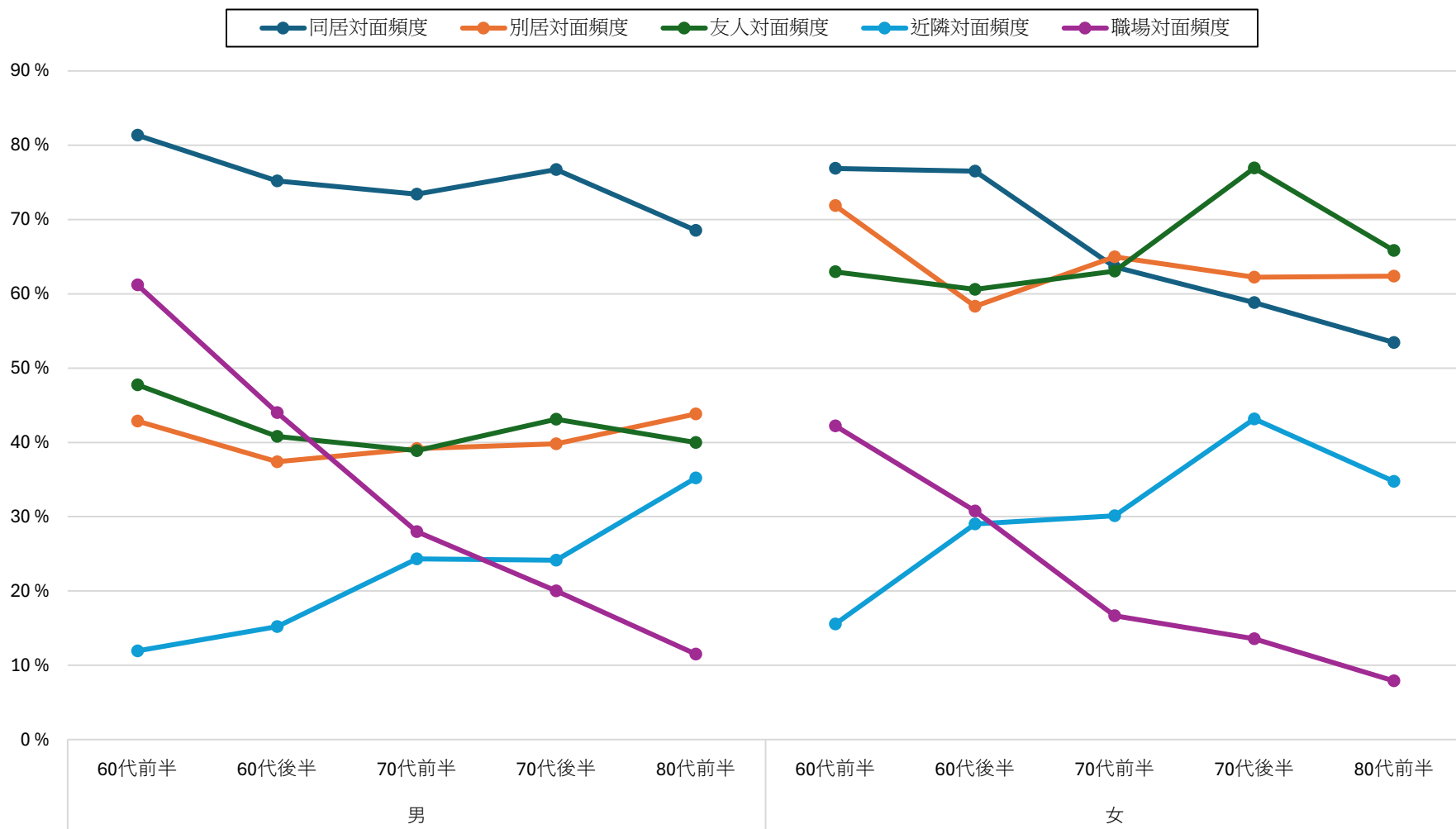
男女とも職場との交流頻度が下がり、別居家族・友人・近隣との頻度があがる。
女性は同居家族との交流頻度が下がる。

対面交流頻度・・週1回以上対面交流をおこなっている割合（対象者がいない人も含める）



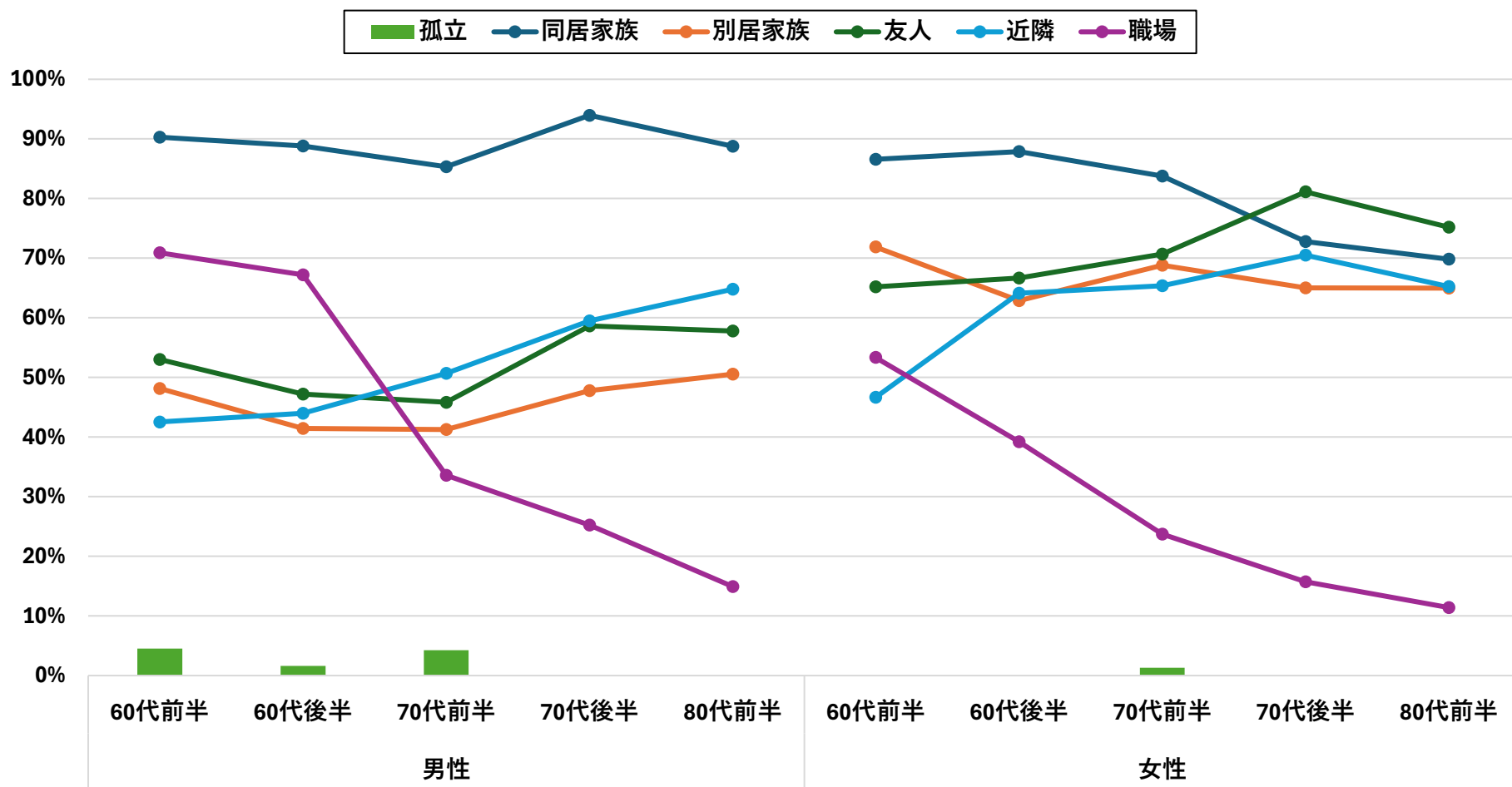
男女とも職場・同居家族との交流頻度が下がり、近隣との頻度があがる。

非対面交流頻度・週1回以上非対面交流（通話・メール・LINE）をおこなっている割合（対象者がいない人も含める）



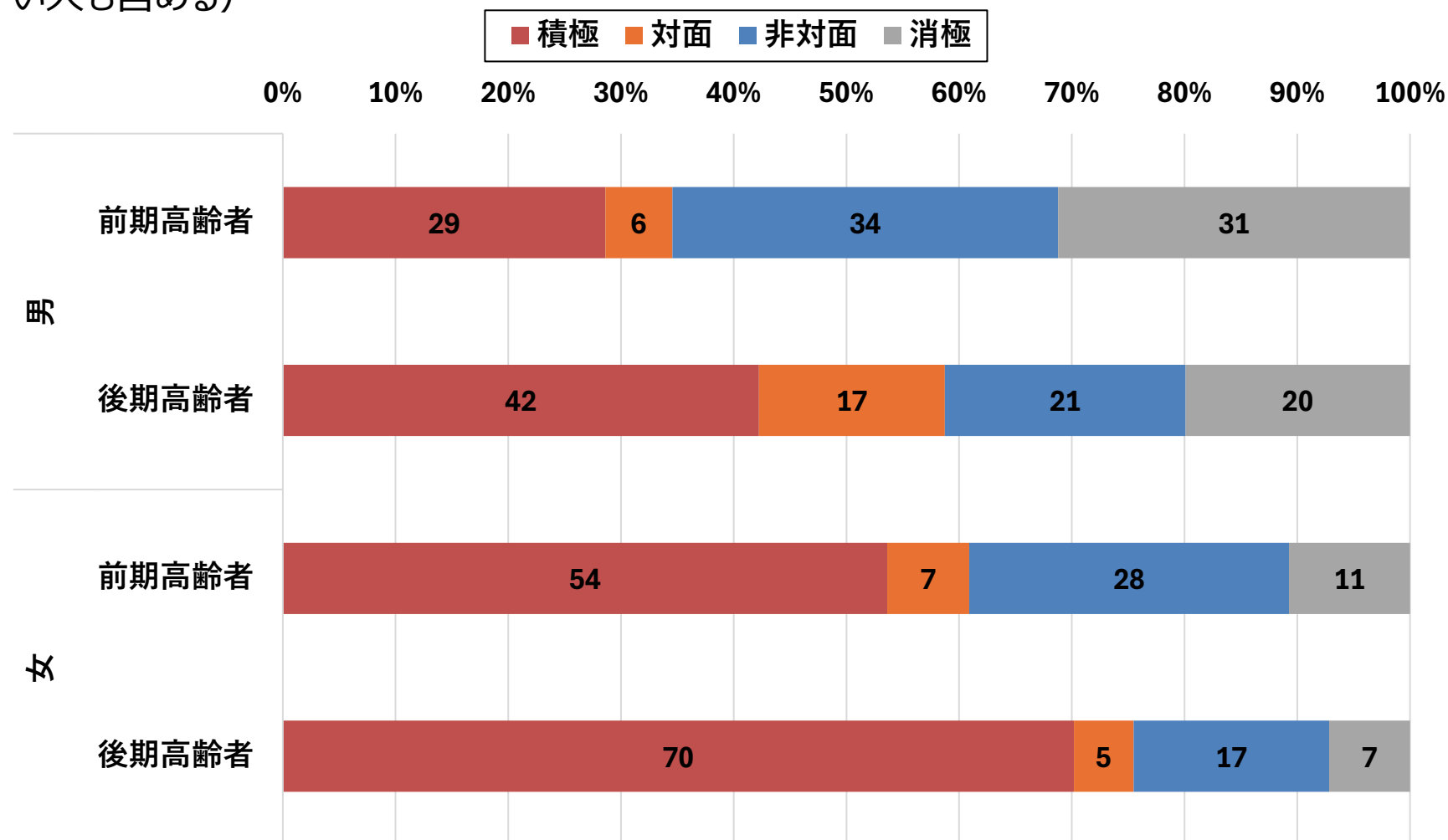
男女とも職場との交流頻度が下がり、別居家族・友人・近隣との頻度があがる。
女性は同居家族との交流頻度が下がる。

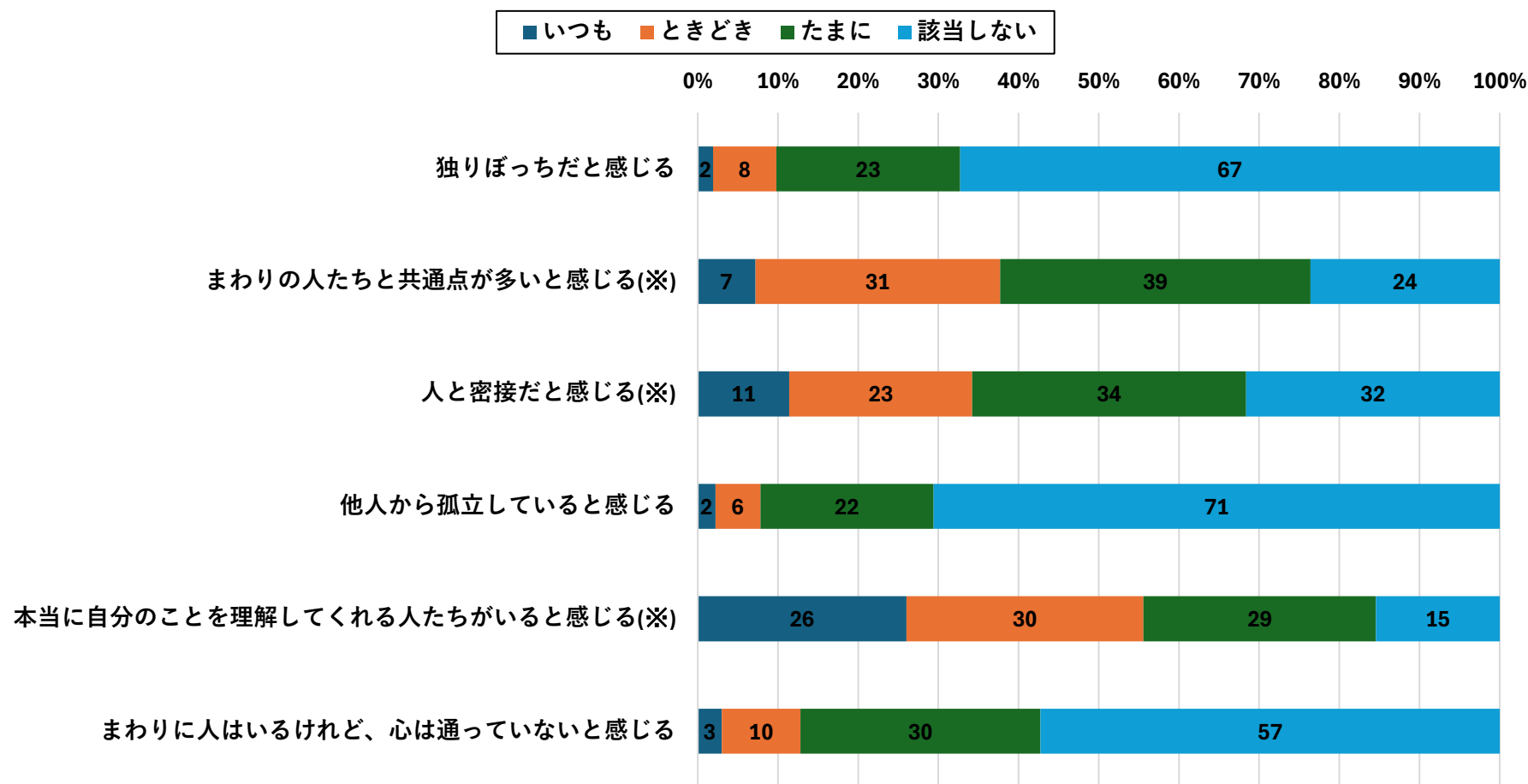
交流頻度・・週1回以上交流（対面・非対面問わず）をおこなっている割合（対象者がいない人も含める）



女性・後期高齢者の交流が盛ん

交流・・・週1回以上交流（別居家族・友人・近隣）をおこなっている割合（対象者がいない人も含める）

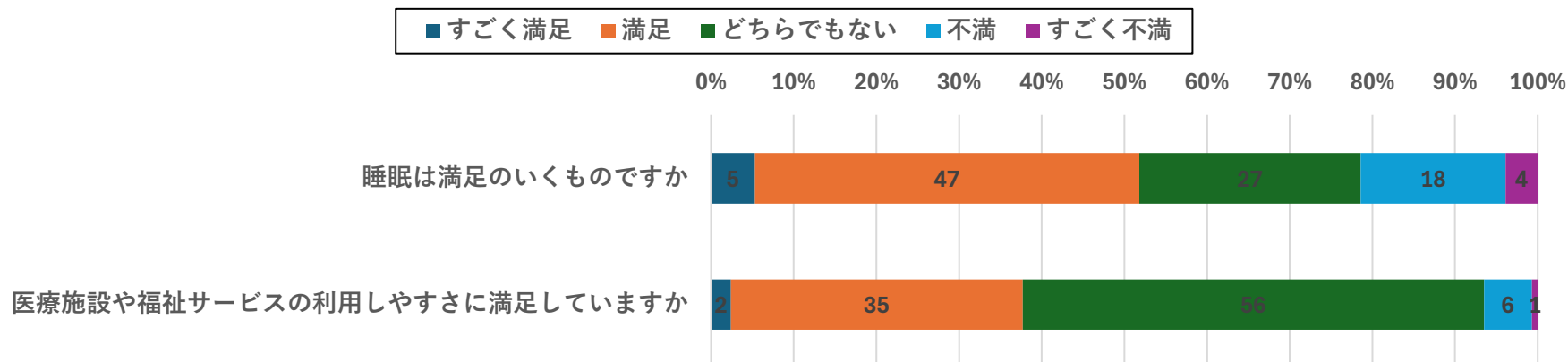
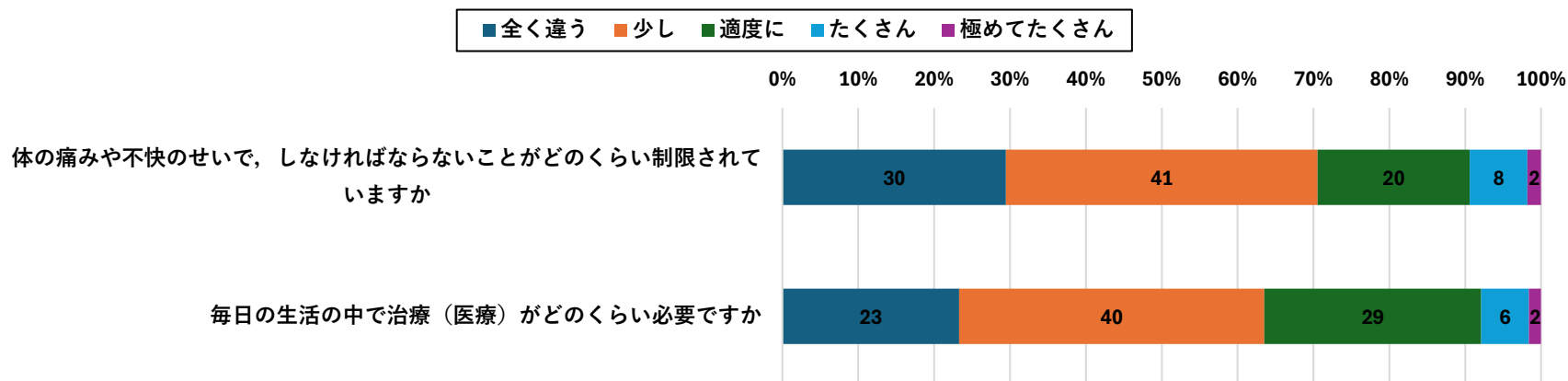




※逆転項目

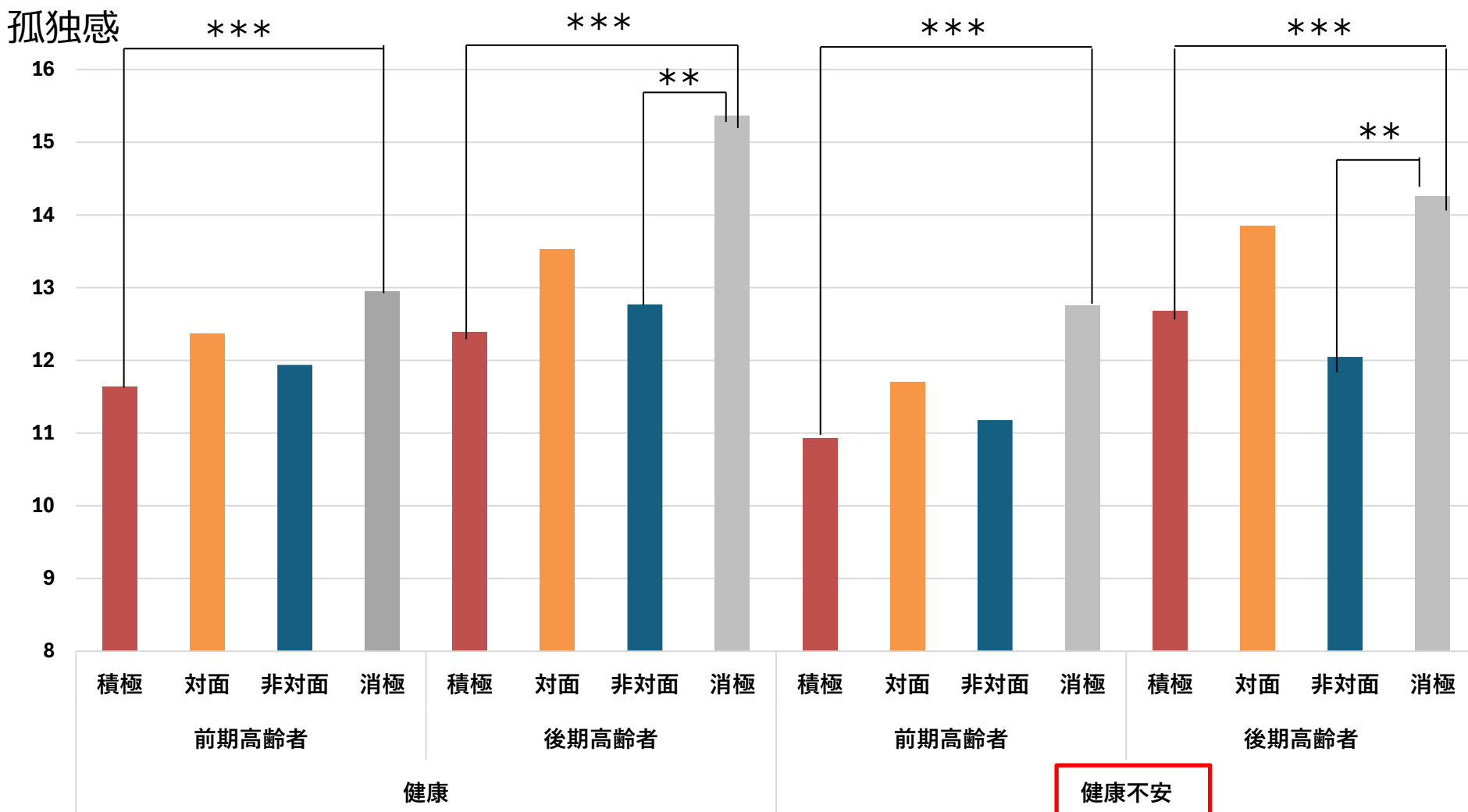
得点化・・・いつも4点、ときどき3点、たまに2点、該当しない1点 24点～6点

《高得点ほど孤独感を感じている》



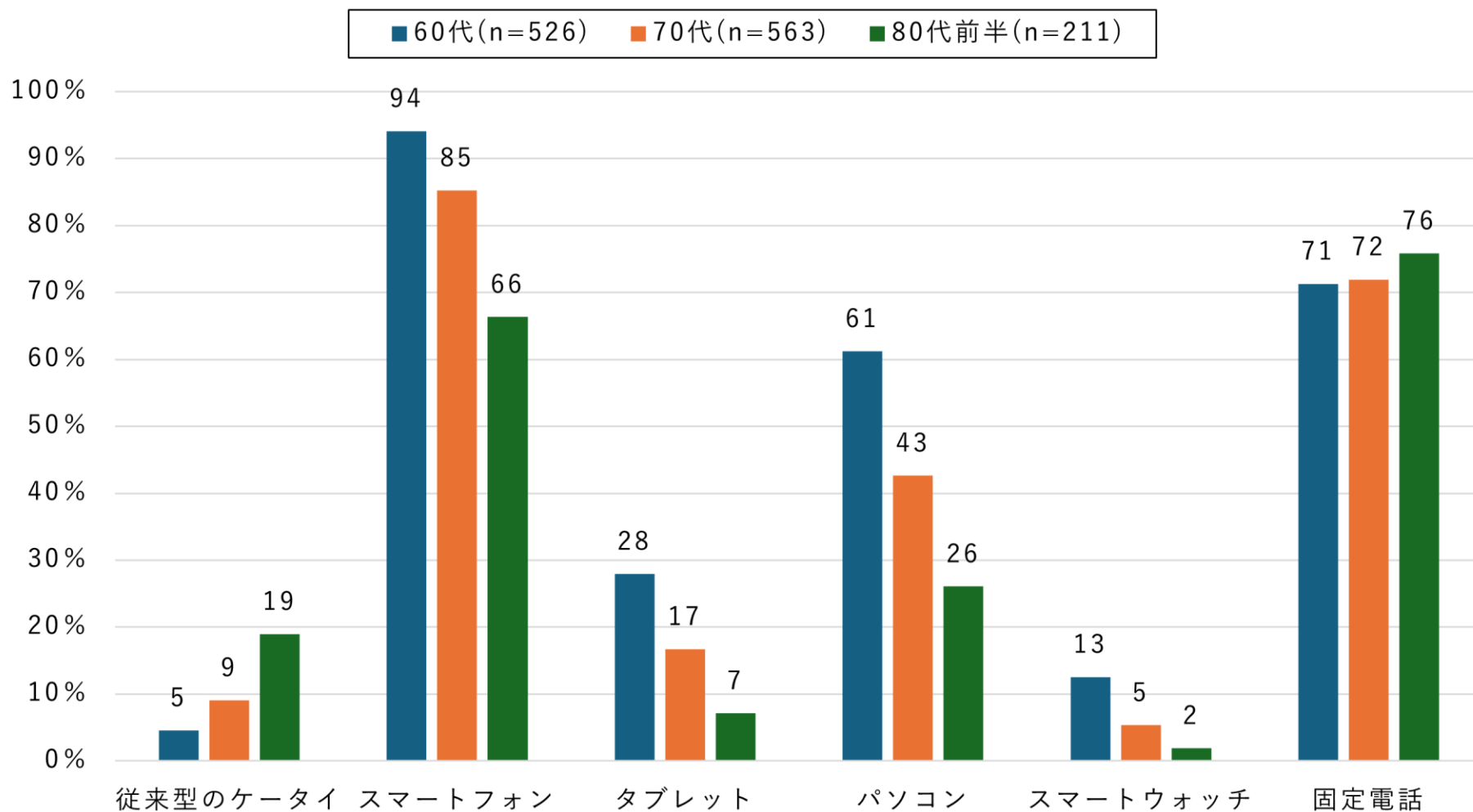
得点化・・・各5～1点 20点～5点→上位49.5%を健康 下位50.5%を健康不安

健康不安のある後期高齢者において、非対面交流を実施している層は、実施していない層と比較し孤独感が低い

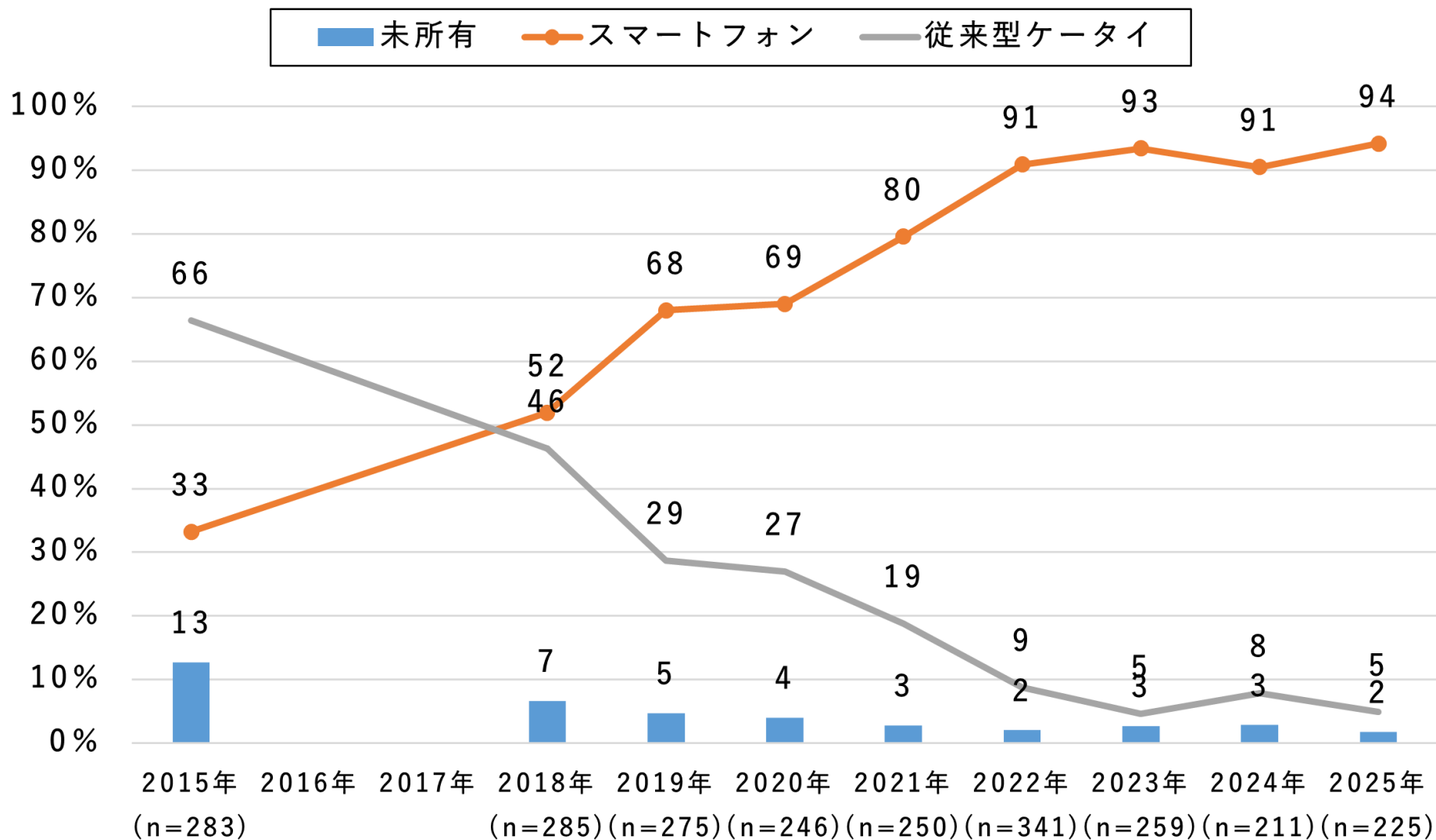


多くの高齢者が何かしらの情報機器を所有している

情報機器の所有率

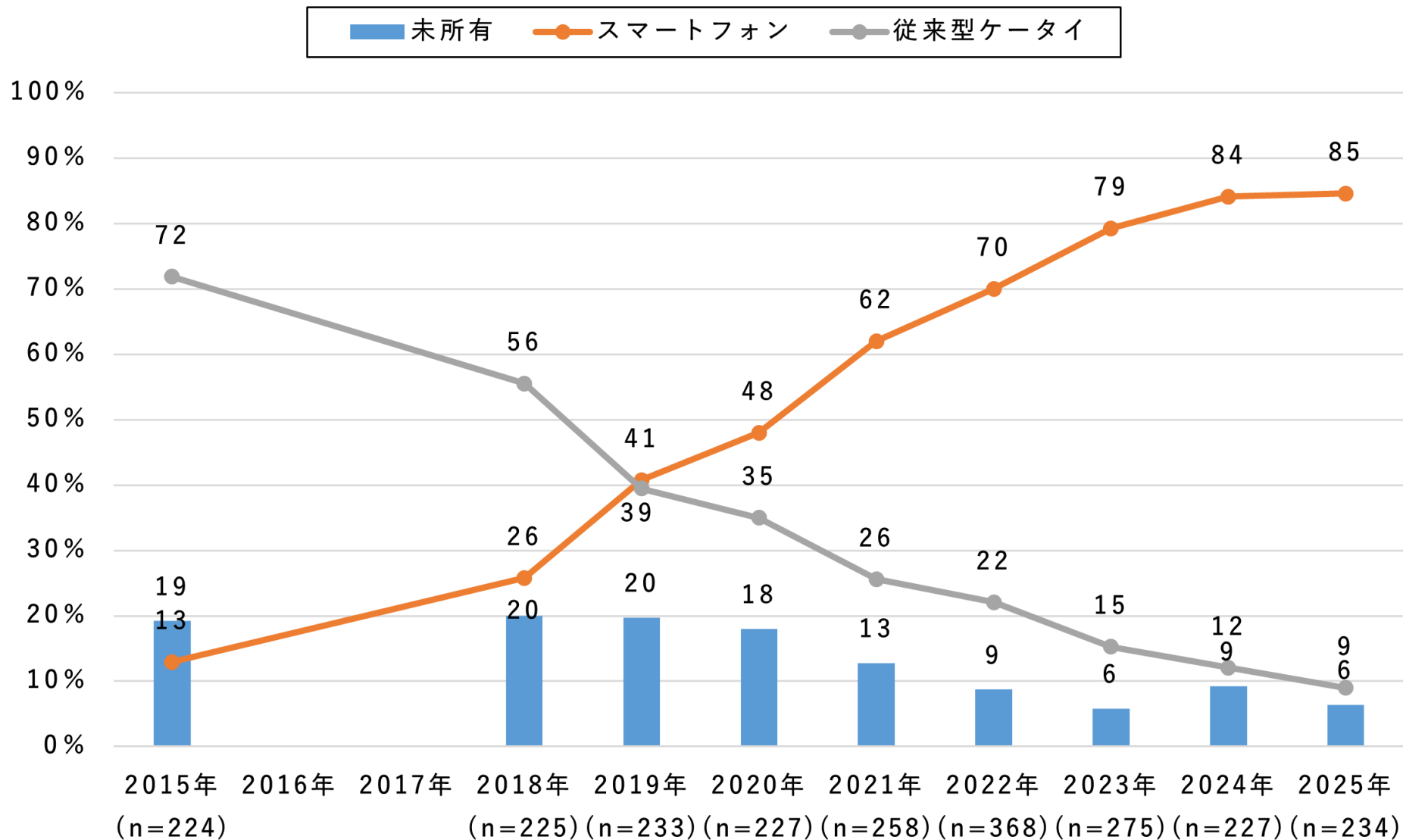


60代スマホ所有率推移



※関東に限る

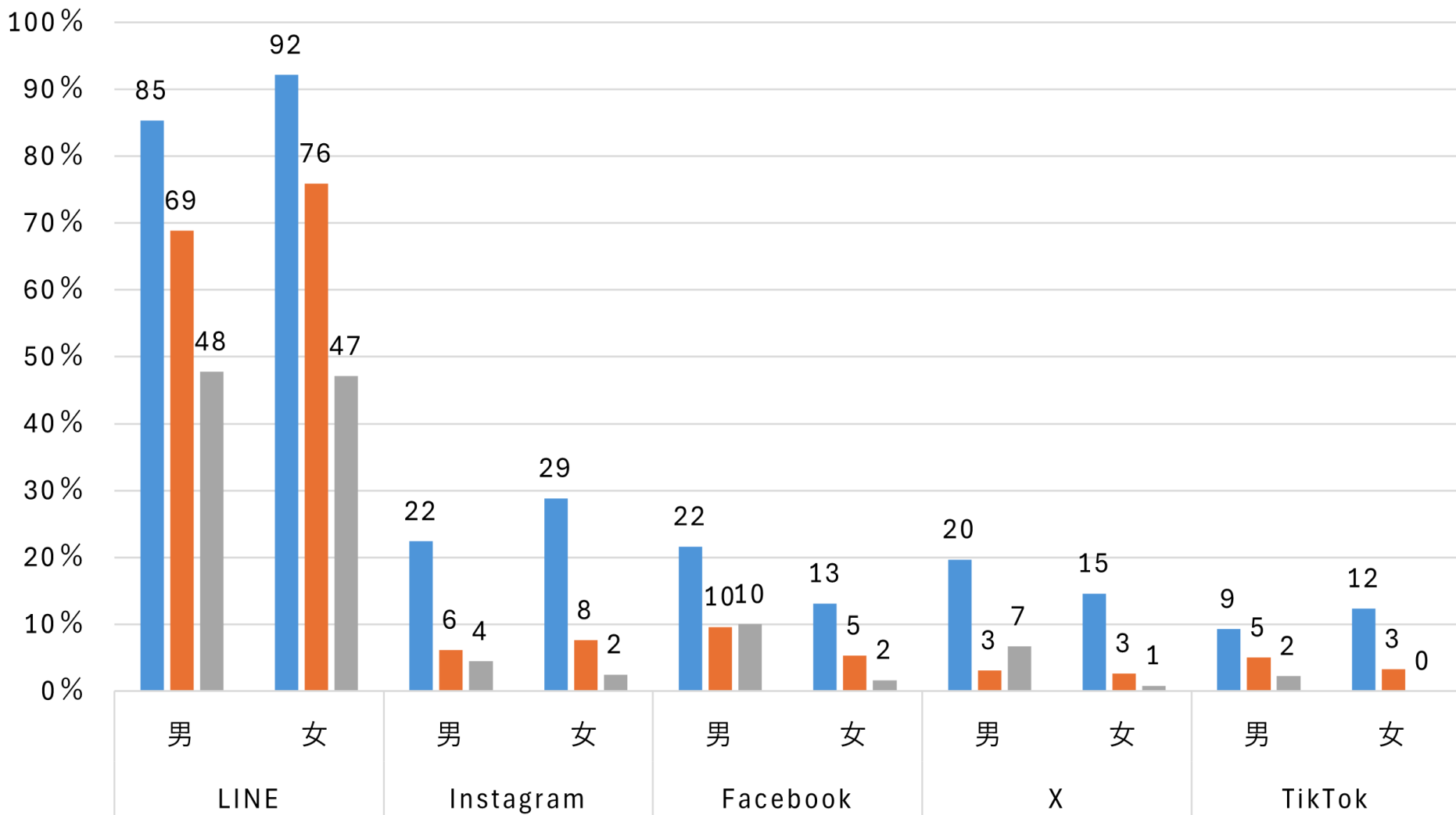
70代スマホ所有率推移



※関東に限る

SNSの利用率

■ 60代 ■ 70代 ■ 80代前半



- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)
 <経年変化:2010年~>
 ニューノーマル
 子どものICT
 スマホ利用者意識調査
 健康とICT
 シニアのICT
 防災・減災のICT

SNS

影の縮小

情報発信

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2024>

データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025

データで読み解く
**モバイル利用トレンド
 2024-2025**
 モバイル社会白書

株式会社NTTコムモバイル社会研究所

連携

(書籍・電子書籍)

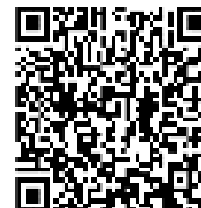
<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>



メディア掲載・データ引用・意見交換会



ご清聴いただき、ありがとうございました
